生涯教育研修会報告書

学術部 学発番号 第 12-002 号

2012 年 8 月 10 日 報告

報告者: 井上和子

所属: 京都桂病院

連絡先: 075-391-5811

主題: 輸血実技講習会

講師: 井上和子

講師所属: 京都桂病院

日時: 2012 年 7 月 28 日(土) 9:30~17:00

場所: 京都保健衛生専門学校

分類: 検体検査 20 点

全体参加人数: 28 人

非会員: 7 人

講義内容

平成 24 年 7 月 28 日(土)9:30~17:00、京都保健衛生専門学校において、輸血実技講習会を行った。

今回は、中級の実技講習会として、ある程度の輸血検査経験者を対象としたため、全体的にほぼ同程度の進行状況で実習を進めることができ、参加者にとっては普段の自分の手順を再確認できる場になったようである。

今回のテーマは、「溶血性輸血副作用発生時の輸血検査」とし、輸血後に出血がないにも関わらず Hb の急激な低下と LD 値の上昇など溶血所見が認められる遅発性溶血性副作用の一症例を挙げ、それに関わる様々な検査を行った。

実技項目は以下の通りである。

1. 血液型検査
2. 不規則抗体検査
3. 交差適合試験再検
4. 直接抗グロブリン検査
5. 赤血球抗体解離試験
6. コントロール・サーベイ

不規則抗体検査では、抗体の特異性の推測などの不規則抗体スクリーニングの結果解釈、スクリーニング血球における絞り込み(消去法)、量的効果、必要な追加検査(パネル血球など)、フィッシャーの正確確率検定について補足説明を行った。

交差適合試験においては、不規則性抗体スクリーニングと交差適合試験の違いについて、また、直接抗グロブリン検査においては、直接抗グロブリン試験陽性時の対応や、直接抗グロブリン試験陽性の主な原因について講義した。

コントロールサーベイは、凝集の有無の判定のみならず、凝集の強さも課題の項目である。自分の判定能力を客観的に見るいい機会となったと思う。この項目は、今回の実習だけでなく精度管理サーベイにも取り上げている項目であるので、今回参加されなかった施設も精度管理サーベイにはぜひ参加してもらいたい。

最後に、総括として、遅発性溶血性輸血副作用の定義・頻度・症状・治療や、溶血性副作用の症状、溶血性副作用の分類や抗体解離法の比較、溶血性輸血副作用が疑われた時の対処について講義を行った。

今年度は、日程の設定など諸事情により実技実習前講義が実施できていないため、基本事項や理論などの説明が不足したように思われる。次回からは日時設定するよう計画を考えたい。こうした実習は手技の習得がつい重点的になるが、手技だけでなく、検査技術においては、「なぜこの手技が必要か、この手技の意味は何か」という理論がわかっていて初めて自分の技術と能力になると考える。